

第11回清明賞受賞作品

1月15日（月）に第11回清明賞授与式を行いました。今年度の受賞作品と清明先生の講評を紹介します。



「虫とりをしたよ」 1年

草の中から飛び出した虫を、種類がわかるほどに上手に描いています。その虫をとろうとする大きな手や顔が今まさに動いているようで、虫とりの楽しそうな様子が伝わってきます。コオロギによって隠れた左手、左手によって隠れた体の重なり具合がとてもいいです。



「かさじぞう」 2年

おじいさんに傘をかぶせてもらったお地蔵さんの表情がなんとも愛らしく、その姿も単純で地蔵の感じをよく表しています。また、雪の表現に工夫があり、ふわふわした感じがよく出ています。おじいさんの蓑の色がお地蔵さんと同じにならない方がいいですね。右奥に木を入れたのは奥行が出てよかったです。



「ぼくの顔」 3年

実物を見てそのまま描くのは簡単そうで実は難しいことなのです。壮平くんは鏡に映る自分をよく見て描き、この絵も壮平くんとよく似ているのでしょうね。ぬくもりのあるいい顔です。そのよく見ることが写生では一番大切なことで、よく見て、感じたままに描けば自然に絵が出来上がります。



「花畑」 4年

手彩色の木版画ですね。一見簡単そうに描かれている花ですが、花の配置が自然で綺麗です。そこに蝶や鳥が入ることで変化が生まれ動きが出ています。配色も明るく明快、丁寧に版木を彫って仕上げたとても美しい版画です。



「光る鉄道」 5年

カーブを描いて空から降りてくる汽車の姿が美しく描かれています。白い煙をはいて汽笛の音まで連想できます。夜空の表現も面白いし、黄色の光も効果的です。そして手前にすすきを入れたことで遠近感がでました。



「修学旅行の思い出 ~奈良の大仏~」 6年

堂々とした大仏様の大きさがよく表れています。頭や顔、体、手の特徴を捉えて、絵として魅力のある大仏様が描けました。手前にある燭台や香炉などを見上げた角度で描けているのはさすが六年生です。また、大仏のまわりに描いた光の表現は漫画的かもしれませんが絵に動きと広がりをつくり効果的です。